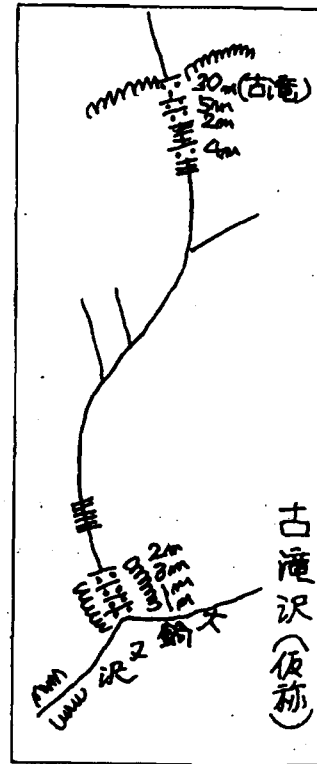


出合に1mの滝がかかる。たいしたことはないが、どうしても登れない。結局ショルダーでやっと越し、あとに続く小滝はなんとかあった。

出合はまずまずかなと思ったが、あとは地図で感じたとおりに延々と川原歩きが続く。みんな我々のためにとっておきに残しておいてくれたものらしく、予想通り(?)の沢である。

川原歩きもいやになった頃、ナメ状になり、滝が出てきた。突然我々の目の前に大岩壁が出現する。真中を落差30mはあろう、古滝である。岩壁は更に高く、50mから80mはあろう。搦きとなると、右岸の尾根まで登らなくてはならない。尾根道は、帰路に予定したものである。思案したが、軟弱者二人である。戦意喪失。本日の遡行はこれまでとし、遡ってきた沢をそのまま引き返す。(記)

[タイム] 出合(7:20)→古滝(9:00)



湯の花沢左俣 1990年8月26日

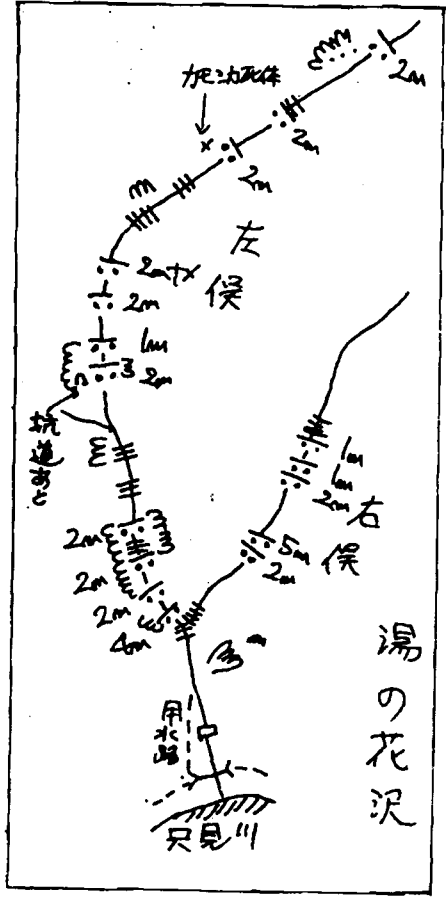
L

たんぼに水を引く用水路をたどり、取水地点から遡行開始。最初から水量少なく心配したが、二俣の先でちょっとしたゴルジュとなった。その中に2~4mの滝が4つ。ホールドはそれほど多くないが、すべて直登可能である。こんな小さな沢の中にも、なかなか楽しい部分がある。

小さなゴルジュ帯が終わると沢は平凡になるが、しばらくするとまた小滝が出てくる。2m程の小さな滝だが、その右岸に小さな坑道がポッカリ口をあけていた。ズリ石が見当たらないところをみると、試し掘りのあとだろうか。それにしてもこんなところで何を掘りだそうとしたのだろう。

このあと2, 3の小滝を越えると平凡となる。そのうち沢の中に何か白いものを見つけた。動物の骨である。大腿骨のようだ。何の骨だろうと思っていたら、すぐ上流に骨がひとかたまりとなっている。カモシカである。もうすっかり白骨化しているが、毛皮の一部も残っている。頭骨や角などもはっきりと認められ、

足の骨だけが水に流されただけで、ほぼ一体分がすっかり残されていた。ナダレ



の跡もないし、どういう理由で死んだのだろうか。

このあとはすっかり平凡。まもなく水も濁れ、ブッシュがかぶさってくる。右手の尾根をこえて右俣を下降する予定であったが、左岸斜面は猛烈なヤブである。二俣まで下降した方が楽だと判断。引き返すことにする。 (記)

[タイム] 出合(7:35)→二俣(7:50)→遊行終了(9:05)

湯の花沢右俣

1990年8月26日
L+

湯の花沢左俣の遊行終了後二俣まで戻り、10:10右俣の遊行開始。すぐ小滝が出てくる。5m滝は左岸を直登。下部は細かいがホールドが豊富。上部はフリクションをきかせて突破する。水流のすぐ右側が登りやすい。

すい。

幸先は上々であったこの右俣は、このあとすぐに平凡となる。たんたんと遊るが、どうにも平凡。ブッシュがかぶさってきたところで遊行終了とする。

(記)

[タイム] 出合(10:10)→遊行終了(10:45)

柴倉沢(下流部)

1990年8月26日
L+

湯倉温泉から只見川ぞいの踏跡をたどり、8:00柴倉沢出合。歩き始めるとすぐに2m滝、3m滝。そして7mと4mの2段滝となる。ここは右の側壁に取り付き、滝の落口にトラバースする。右からナメ状の支沢を合わせる。合流点のあた